

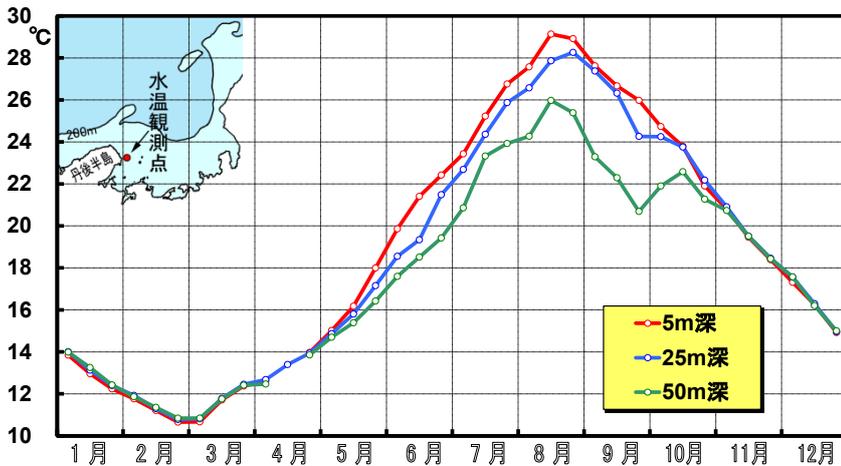
# 京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況 ～2013 年 1 月から 12 月まで～

表層の水温は、冬～春に例年並みかやや低めでしたが、太平洋高気圧やチベット高気圧の勢力が優勢だった夏季には例年よりかなり高めで推移しました。その後、晩秋には降温が進んで例年並みの水温となりました。

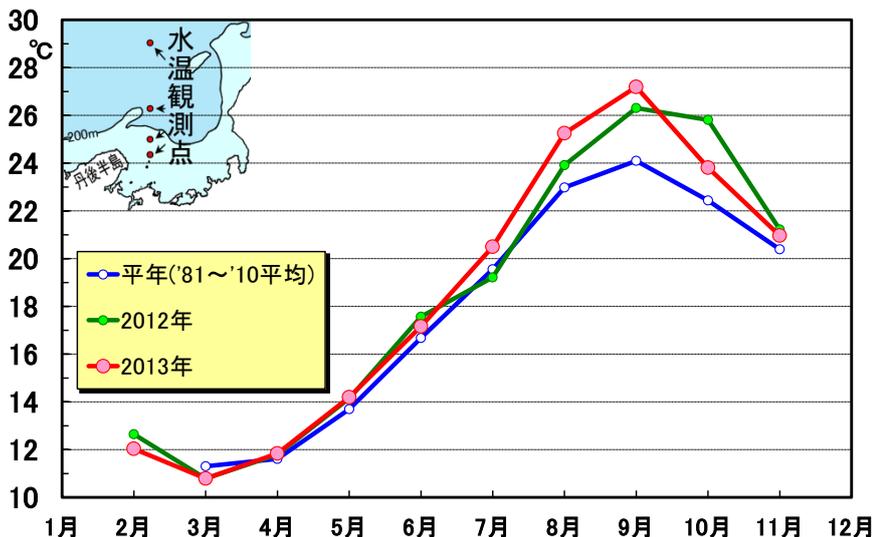
京都府沿岸(伊根町新井崎地先 海深 64m) の水温



月平均水温と平年差(括弧内)

単位: °C	5m 深	25m 深	50m 深
1月	13.0(-0.5)	13.2(-0.5)	13.2(-0.4)
2月	11.2(-0.4)	11.3(-0.5)	11.4(-0.5)
3月	11.6(±0)	11.7(-0.1)	11.7(-0.2)
4月	13.3(±0)	13.3(+0.1)	13.2(±0)
5月	16.4(+0.2)	15.9(+0.1)	15.5(+0.1)
6月	21.2(+1.4)	19.8(+1.1)	18.5(+0.8)
7月	25.1(+1.5)	24.3(+2.0)	22.7(+2.1)
8月	28.5(+2.3)	27.6(+3.2)	25.2(+3.5)
9月	26.8(+1.4)	26.0(+2.0)	22.1(+0.5)
10月	23.5(+1.0)	23.4(+1.1)	21.9(+0.5)
11月	19.5(±0)	19.6(+0.1)	19.6(+0.1)
12月	16.2(-0.2)	16.3(-0.1)	16.3(-0.1)

京都府沖合の表層水温(0~50m 深平均)



各月水温と平年差

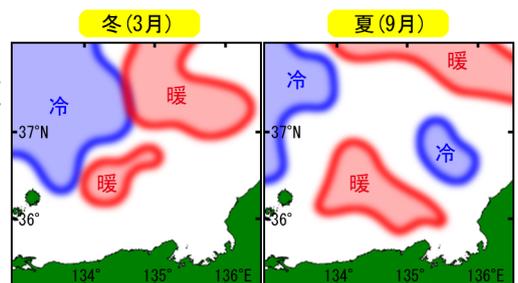
単位: °C	水温	平年差	評定
1月			観測なし
2月	12.0		データ過少につき評定なし
3月	10.8	-0.5	やや低め
4月	11.8	+0.2	平年並み
5月	14.2	+0.5	やや高め
6月	17.2	+0.5	やや高め
7月	20.5	+0.9	かなり高め
8月	25.3	+2.3	はなはだ高め
9月	27.2	+3.1	はなはだ高め
10月	23.8	+1.4	かなり高め
11月	21.0	+0.6	やや高め
12月			観測なし

京都府沖合の水塊配置

資料元: (独)日本海区水産研究所

京都府沖合には暖水域が二つ出現し、その形状を複雑に変化させていました。

冷水域の勢力は、やや弱めで推移した期間が多かったようです。

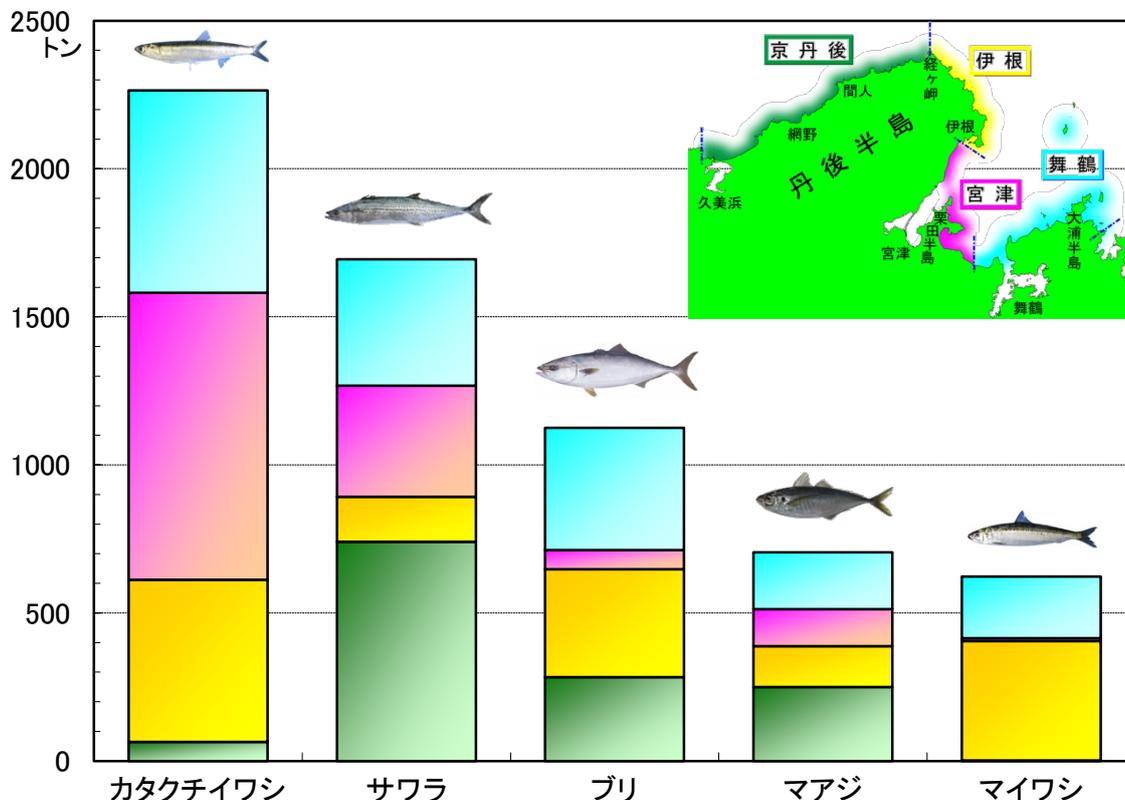


# 漁模様 ～2013年1月から12月まで～

## 【定置網漁業】

サワラやマイワシ、カマス類などが好漁でした。一方、カタクチイワシやアジ類が例年より少漁でした。全体では平年の9割弱で前年並みの水揚げでした。

2013年の地域別漁獲量(上位5魚種)

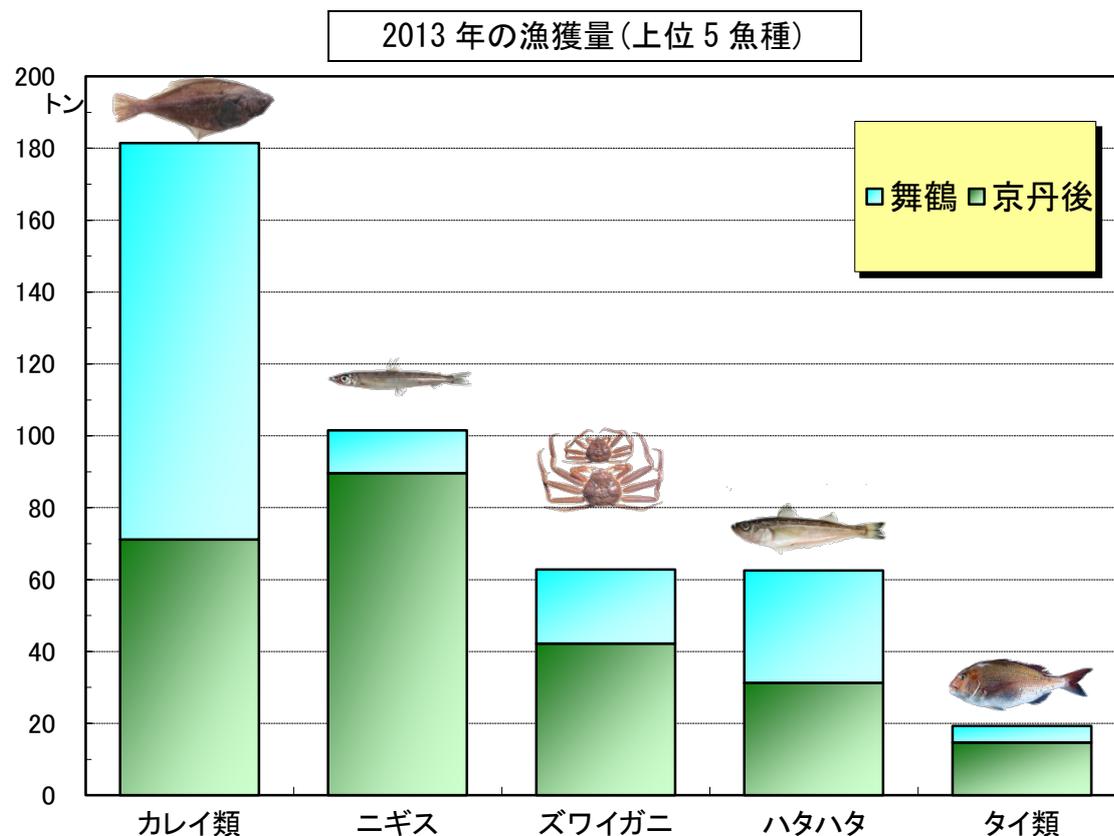


年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考	
カタクチイワシ(たれ)	2265	1942 (117%)	2718 (83%)	<カタクチイワシ> 混ぜり銘柄(カタクチイワシの他に小さなアジ類やサバ類、マイワシ等も混ざったもの)も含めて集計。	
サワラ	1694	1533 (111%)	1432 (118%)		
ブリ	1125	1561 (72%)	1250 (90%)		
マアジ	705	1007 (70%)	2110 (33%)		
マイワシ	623	181 (345%)	98 (633%)		
イカ類	493	522 (94%)	456 (108%)	<ブリ> つばす銘柄が741トン、はまち銘柄が158トン、まるご銘柄が38トン、ぶり銘柄が188トンでした。	
カマス類	428	425 (101%)	218 (196%)		
トビウオ類	216	330 (65%)	171 (126%)	<イカ類> ケンサキイカ(白いか)が135トン、アオリイカ(秋いか)が124トン、スルメイカが112トン、ソデイカ(たるいか)が68トン、ヤリイカ(冬いか)が42トンなどでした。	
シイラ	193	314 (61%)	203 (95%)		
マルアジ(青あじ)	139	58 (237%)	271 (51%)		
その他	1356	1357 (100%)	1717 (79%)		
合計	9236	9230 (100%)	10643 (87%)		

平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

主要な魚介類は例年よりやや少漁気味で、全体では平年の7割弱、前年の8割程度の水揚げでした。

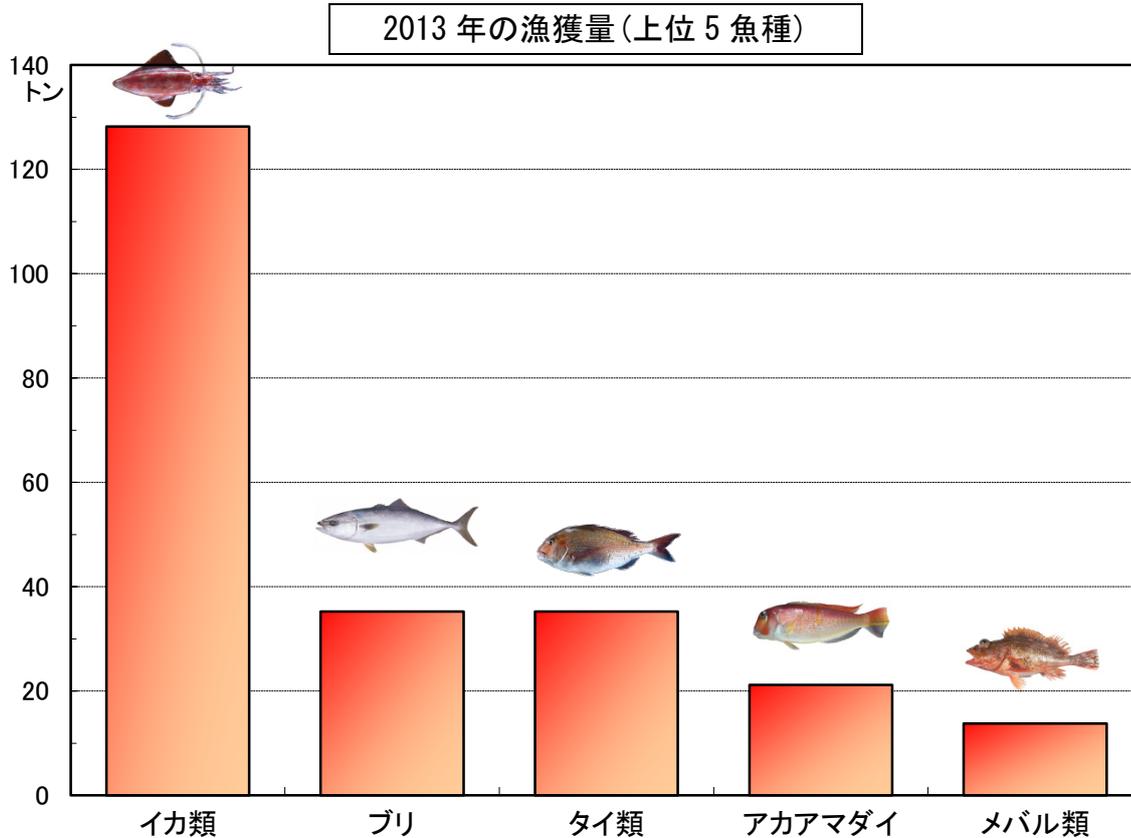


年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	181	187 (97%)	235 (77%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が113トン、ソウハチ(えてがれい)が34トン、ヒレグロ(黒がれい)が16トン、ムシガレイ(水がれい)が9トン、ヤナギムシガレイ(ささがれい)が8トンなどでした。
ニギス(沖きす)	102	93 (109%)	102 (100%)	
ズワイガニ	63	82 (77%)	103 (61%)	
ハタハタ	63	143 (44%)	194 (32%)	
タイ類	19	16 (124%)	12 (163%)	
貝類	13	9 (145%)	9 (145%)	<ズワイガニ> オス(間人がに・舞鶴かに)が34トン、メス(せこがに)が29トンでした。
アンコウ	13	30 (42%)	28 (45%)	
タコ類	10	10 (93%)	15 (65%)	
エビ類	8	4 (198%)	6 (125%)	
タラ類	8	4 (182%)	2 (358%)	
その他	34	45 (76%)	51 (67%)	
合計	513	622 (82%)	757 (68%)	

平年は過去10年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

主な釣獲対象となる魚介類のなかでは、ソデイカが好漁でした。全体の水揚げ量は、平年の8割強および前年の9割でした。



年間漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
イカ類	128	128 (100%)	94 (136%)	<イカ類>
ブリ	35	48 (74%)	66 (53%)	ソデイカ(たるいか)が88トン、スルメイカが29トン、ケンサキイカ(白いか)が8トン、アオリイカ(秋いか)が2トンなどでした。
タイ類	35	30 (117%)	36 (98%)	<ブリ>
アカアマダイ(ぐじ)	21	24 (87%)	26 (82%)	ぶり銘柄とまるご銘柄がそれぞれ12トンずつ、はまち銘柄が4トン、つばす銘柄が7トンでした。
メバル類(もいお)	14	13 (102%)	15 (90%)	<タイ類>
サワラ	8	18 (42%)	27 (28%)	マダイが24トン、キダイ(レンコダイ)が11トン、クロダイとチダイが若干量でした。
ウマヅラハギ(長はぎ)	6	6 (103%)	9 (66%)	
マアジ	6	5 (109%)	8 (67%)	
ヒラマサ	2	1 (274%)	1 (319%)	
スズキ	2	2 (97%)	4 (53%)	
その他	20	29 (68%)	41 (49%)	
合計	278	305 (91%)	329 (84%)	

平年は過去10年平均

## 【2013年の特異的なできごと】

冬

・ブリ成魚(平均体重 9.1kg)が定置網で好漁  
(1月に平年比 2.7 倍の 81 トン)。

・サンマが定置網で好漁  
(1月に平年比 5.4 倍の 39 トン)

春

・マイワシ(体長 18~20cm の中羽銘柄主体)が定置網で好漁。  
(3月~4月に平年比 10 倍の 618 トン)



・混り銘柄(小型のイワシ類・アジ類・サバ類)が定置網で多獲(6月~7月に平年比 1.9 倍の 1223 トン)。漁獲量の約 7 割は小型のマイワシ(体長 4~9cm 主体)で占められた。



・ヨコシマサワラ(犬ざわら)が定置網でややまとまった水揚げ。  
(6月~8月に平年比 29 倍の 2.8 トン)。



夏

・カンパチ(体長 30~40cm 級の未成魚)が定置網で好漁。  
(8月~9月に平年比 15 倍の 78 トン)



・9月中旬に本州を縦断した台風 18 号の影響で大荒れの天候。気象庁より大雨特別警報が発令。丹後では定置網の損壊や漁船沈没などの被害発生。

・エチゼンクラゲは 4 年連続で大量来襲せず  
(9月~11月に定置網に少量入網した程度)。

・サワラ 0 歳魚(さごし)が定置網で好漁  
(9月~10月に平年比 1.9 倍の 754 トン)



秋

・カマス類(主にアカカマス)が定置網で好漁  
(9月~11月に平年比 2.2 倍の 214 トン)

・アカヤガラが定置網でややまとまった水揚げ。  
(9月~11月に平年比 14 倍の 28 トン)



・ブリ成魚が沿岸海域で不漁  
(12月に平年比 1 割未満の 3.9 トン)。

## 【2013 年に見かけた珍しい生き物】

下の写真は、2013 年に丹後の海で見られたあまりなじみのない生き物の一例です。

ユキフリソデウオ	オサガメ	
 <p>全長：1m(標本は 50cm, 宮津市で 6/25 採捕)            分布：日本各地            特徴：リュウグウノツカイと同じアカマンボウ科の魚。写真の標本は若魚で背びれと腹びれが長く伸びていますが、これらは成長に伴いなくなるようです。</p>	 <p>甲羅長：250cm(標本は 150cm, 伊根町で 11/14 採捕)            分布：熱帯・亜熱帯の海域            特徴：世界最大のウミガメ。甲羅は他のウミガメのように硬くなく、7本の筋状の隆起があります。</p>	
ギンカガミ	タカサゴヒメジ	ウシエビ
 <p>体長：30cm            (標本は 16cm, 宮津市で 10/20 採捕)            分布：南日本            特徴：ギンカガミ科の魚で、体がとても平たく、腹びれの一部が長いです。食用。</p>	 <p>全長：30cm            (標本は 14cm, 宮津市で 10/20 採捕)            分布：南日本            特徴：ヒメジ科の魚で、下あごのひげや、背びれの下濃い斑点が特徴です。</p>	 <p>体長：30cm            (標本は 21cm, 宮津市で 12/18 採捕)            分布：九州, 瀬戸内, 太平洋沿岸            特徴：クルマエビの仲間。東南アジア等から輸入される養殖エビのブラックタイガーは本種。</p>

参考文献：北隆館「新訂原色魚類大図鑑」「新日本動物図鑑」

今回、標本や情報のご提供を頂いた栗田漁業生産組合、有限会社新井崎水産ほか漁業関係者の皆様に感謝いたします。珍しい海の生き物を発見された場合には、当所までご連絡いただけると幸いです。